

## 2016年3月期 第1四半期決算説明会

### 質疑応答

Q. 粗利率の改善要因について、利益率改善要因の影響が9.9億円、そのうち4億円は不採算案件の減少、残りの部分は製品品質の改善施策の影響というご説明がありましたが、具体的にどのような施策で粗利率が改善しているのかお聞かせください。

A. まず前提として、システム販売案件の増収率が他の取引形態区分よりも高くなっておりますが、実は、システム販売案件は全体の総利益率でも若干低利益率のビジネスであることから、今ご指摘いただいた以上にシステム開発、ならびに保守運用の事業における粗利率は向上しているのご理解いただければと思います。

その上で、具体的にどのような施策を行っているかということですが、開發生産性、開発品質を向上すべく、弊社では徹底して開発プロトコルを標準化し、全社に導入しております。この業務品質の向上が収益性向上につながっているものと考えております。なお、将来的には、業務委託者、業務委託のパートナーの方々にも同様の開発標準を適用していただき、全社を挙げて開發生産性の向上に取り組んで参ります。

また、昨年来、様々な働き方改革を行っておりますが、これは役員および社員個人個人の業務改善・業務効率化をも包含した全社を挙げての運動であり、その部分で現実に目に見える効果が出てきていると考えております。

さらには、昨年の後半以降、特に第4四半期以降、弊社でのディールフロー、受注動向は堅調に推移しております。通常、第1四半期においては、ディールフローの一旦の入れ替えがございますが、今年につきましては、昨年度の第4四半期以降、金融業等のシステム開発案件を中心としまして、システム開発が本格化しており、いわば巡航速度的な業務運営がなされております。その結果、第1四半期に落ち込むシステム開発案件の、案件の初期段階における収益性の低下が比較的抑えられたことにより、全社の収益性向上につながっているものと考えております。

Q. ケーブルテレビ業顧客向けの大口径システム販売の増加について、一過性のものなのか、第2四半期以降も続く見通しであるのかを教えてください。

A. 説明内容にもありましたとおり、ケーブルテレビ事業向けだけでなく、それ以外の通信業務系のシステム販売も増加しておりますので、その点ご考慮ください。

その上で、ご質問内容はケーブルテレビ業顧客向けの各種通信機器販売、ITネットワーク機器販売、あるいはソフトウェア等の販売についてのご質問と解しまして、お答えを

いたしますが、第2四半期においても、ある程度の堅調なシステム販売案件の増加が見込まれております。これはもともと、期初予算に通期増加分として見込んでいた話であります。

また、先ほど申し上げたお話の中で、一部前倒しのものがあるというのは、第2四半期以降、年度通期までの間で前倒し効果が一部あるとご理解いただければと思います。

一般の今年度上期の業績予想修正においては、もともとの予算段階での見込みも含めまして、このシステム販売案件、ネットワーク機器販売案件の増加は、第2四半期もある程度続くものとして見込んでおります。現状の受注動向を見ても、われわれの見込みどおりの結果となる予定であります。

Q. 今回通期の予想は据え置きということですが、上期の数字が更に良くなり、予想を上回った場合、その上回った部分について、車載事業の設備投資、開発投資に充当するようなプランはあるのでしょうか。

A. 今、この時点で申し上げるとすると、私どもの戦略的事業投資というのは、まさにその事業投資開発のために、開発計画、事業計画を独立して作り、それに基づき進行しております。ですので、業績と連動して年間の事業投資が増える、減るということは今のところ考えておりません。ただ今後、例えば顧客の要望が非常に明確に見えた場合、われわれの事業投資も増える可能性がございますので、その旨はご理解いただきたいと思います。

Q. 定常的業務による売上の拡大が予想を上回った部分に関しては、そのまま通期の業績予想に上乗せされるという理解でよろしいでしょうか。

A. オーガニックグロースという意味であればそのとおりです。ただ、事業投資は生き物ですので、事業投資自体でさらなる投資要請がありうるということをご理解いただきたいと思います。

Q. 第1四半期の戦略投資額2億円程度とのことですが、第2四半期以降の投資のイメージを教えてください。

A. あくまでもイメージということでお答えいたします。

先ほど申し上げましたとおり、第1四半期の戦略投資額は2億円弱という実績であり、第2四半期は4~5億円以下だと思っております。従いまして、戦略事業投資額は年間で20億円程度と計画していることから、下期にその差分が費用投下されるとご理解ください。特に、第4四半期に一番多く投下するとご理解いただければと思います。

- Q. 第4四半期に最も事業投資を行うということで、粗利益率については第4四半期は厳しくなるものと思いますが、その戦略投資を計画どおり行いながらも、全社ベースで見ると粗利益率の緩やかな改善というのが続いていくのか、年間で見ると改善する可能性はあるのかを教えてください。
- A. もともとの期初予算では、これだけの費用投下をしても営業利益率は昨年並みを維持する、という想定をしております。実態はそれ以上に生産性が向上し、収益性の改善が見られる状況です。われわれとしては更なる収益性の向上を期待して今後の事業運営に当たってまいりたいと考えます。
- Q. 車載事業の取り組み等、何か進展がありましたらお伺いできますでしょうか。
- A. 誠に申し訳ないのですが、車載事業自体の進展については、その都度私どもからアナウンスすべきときに必要なアナウンスをさせていただきたいと思っております。本日時点で新しく申し上げるべきことはありません。
- Q. 車載事業について、人材リソースのシフトは順調に進んでいるのでしょうか。
- A. 基本的に計画通りに進捗しております。車載事業への戦略的投資については、従前から申し上げているとおりに進捗しておりますので、特段のプラスもマイナスもないものとお考えいただければと思います。

以上